

研究だより

大阪教育大学附属幼稚園

令和5年1月17日発行

皆様ご存知の通り、附属学校園では、様々な研究に取り組んでいます。しかし、保護者の皆様は、研究とはどのようなことをしているのか、分かりにくいところもあるのではないのでしょうか？そこで、『研究だより』を発刊し、本園が進めている研究活動を保護者の皆様にご紹介しています。

研究一年目のスタートです

昨年度、3年間の研究を終え、今年度から新しい研究テーマで研究を進めていくことになりました。まずは、新しい研究テーマをどのようなテーマにしようか、教師間で話し合いました。

日々の保育を振り返る中で「子どもたち一人一人が、自信をもって生活するためには、どのような経験ができるといいんだろう」という思いが出てきました。そして「自分のよさや可能性に気付くことが、自信をもって生活することにつながるのではないか」と考えました。

そこで、研究テーマを、

自分のよさや可能性に気付くための保育の在り方を探る としました。

テーマについて考えよう

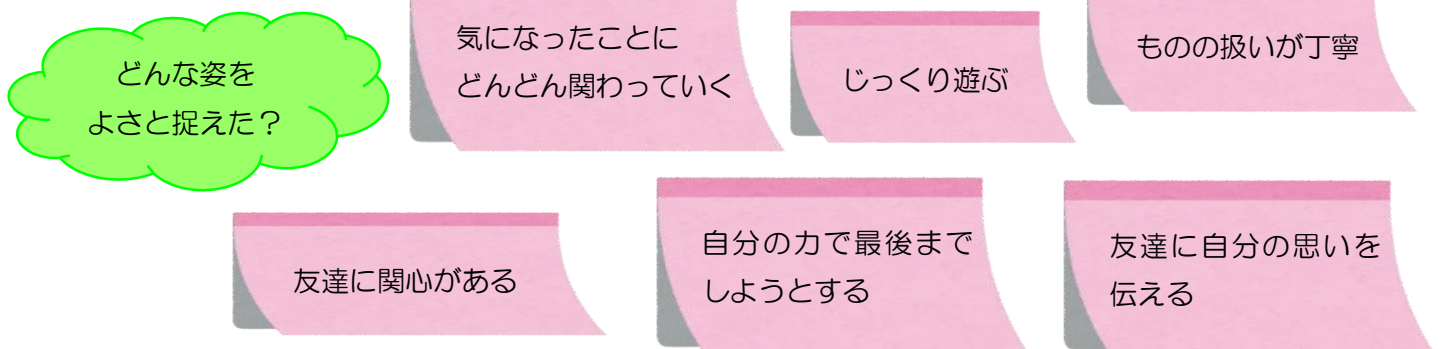
研究テーマを設定し、まず始めに「幼児一人一人のよさや可能性」について考えることから始めました。

みなさんは「よさ」や「可能性」という言葉からどのようなイメージが思い浮かびますか？

教師間で話し合うと、いろいろな意見が出てきました。



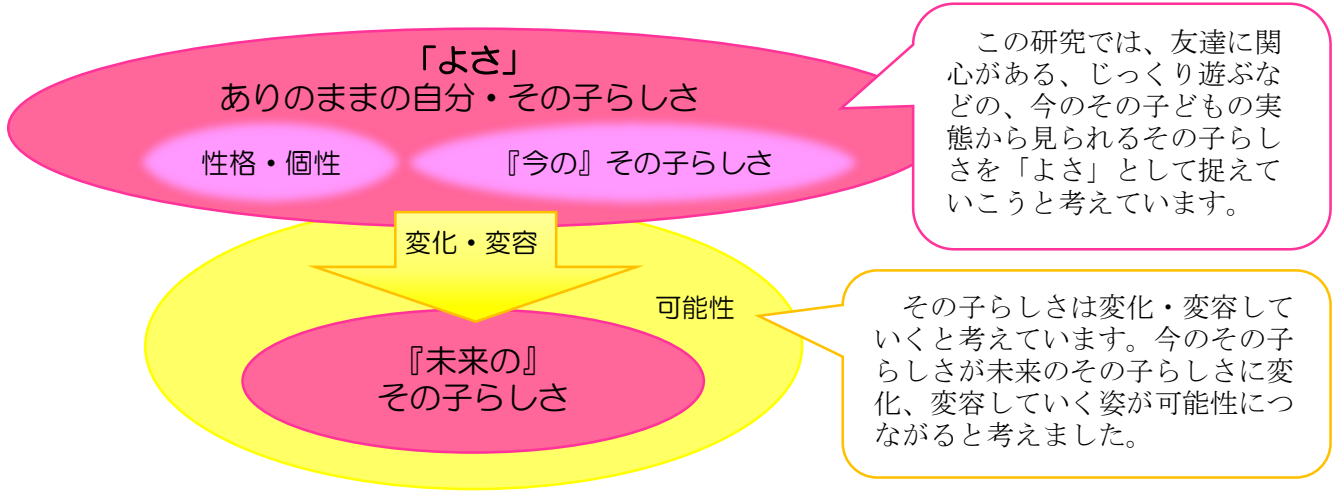
次に幼児の姿からも捉えてみようとして、1学期の園内研修会では、「よさ」に視点をしぼって子どもたちの姿を見取りました。



子どもたちが幼稚園で過ごす姿から、たくさんの「よさ」と捉えることのできる姿が出てきました。

「よさ」や「可能性」とは？

これまでの捉えをもとに、「よさ」や「可能性」をもう一度考えてみました。「よさ」とは、幼稚園教育要領では、平仮名で明記されています。本園の研究でも、漢字での「良い」という意味で捉えるのではなく、ありのままの子ども、その子どもらしさと捉えたいと考えています。



今後は・・・

日々の保育の中で、一人一人の「よさ」や「可能性」を見取りながら、そのよさや可能性を支えていけるよう、保育を進めていきたいと思ひます。

保育研究会ってどんなことをしているの？

令和4年11月5日(土)に保育研究会を行いました。
今年度は人数制限を行い、大阪府内から幼児教育関係者の方にご来園いただき、研究に関する様々なご意見をいただいたり、共に学び合ったりしました。

参会者の皆様に、遊戯室へ集まっていただき、研究の動機、目的などを報告します。この時間を設けることで、保育を見る視点を共通理解します。

遊戯室に集まり、研究内容について報告します。研究内容についての討議もします。

8:40	9:00	9:10		11:00	11:30	12:30	13:30	14:00		17:00
受付	趣旨説明	公開保育	研究報告・協議	昼食	保育を語る会	休憩・移動	基調提案	各校園の研究報告	講演会	閉会
附属幼稚園 保育研究会						附属平野五校園 共同研究発表会				

「保育を語る会」とは、各学年別に保育を振り返り、討議をする会です。

<指導助言>

大阪教育大学 中橋 美穂 先生
大阪教育大学 小松 孝至 先生
大阪教育大学 柳岡 開地 先生

当日は参加された先生方から、様々なご意見をいただきました。

午後からは、附属平野五校園（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）の共同研究発表会を行いました。昨年度から引き続き、「一人ひとりの多様な可能性を広げる評価の在り方～主体性が働く【探究学習】プログラムと学習評価のモデル開発をめざして～」というテーマのもと、研究を進めています。